

平成27年度自殺対策行動計画における取り組み状況および28年度事業計画

——主な取り組みと評価・課題——

基本方針1 社会的な要因、地域の実態を把握し、情報共有に努めます

基本施策1 自殺の実態を明らかにする

- ・統計データ等による実態集計、分析
- ・自殺念慮関連の個別支援・ケース会議
- ・自殺未遂者についてのケース会議・事例検討会
- ・市内大学との情報交換会

死にたいと思っている人や自殺未遂者への支援は、本人だけでなくその家族や身近な人たち、支援している人たち全てを支える必要がある。関係機関が集まって話をするすることで、支援者が同じ方向を向いて、それぞれの役割を明らかにしながらより適切な支援を展開していくことができるため、健康増進課自殺対策担当が軸となり、今後も積極的に実施していく。

併せて、情報交換会などを継続的に実施し、草津市における自殺の現状を各所と共有し、より効果的な事業の実施につなげていく。

基本施策2 情報を共有し総合的な自殺対策を推進する

- ・自殺対策推進会議の開催
- ・自殺対策関係課会議の開催

庁内関係課が共通認識を持って自殺対策を推進していくため、関係課会議を開催し、その後、推進会議を開催することで、市と関係機関、市民とが情報を共有しながら計画を推進できた。今年度も2回ずつ開催予定とし、協議を深めていく。

目標指標：「草津市自殺対策推進会議」や「草津市自殺対策関係課会議」を年1回以上開催する。

⇒ 開催できている。更なる推進のために、継続して開催していく。

基本方針2 こころの健康づくりをすすめます

基本施策3 健やかなこころをはぐくむ

- ・企業内同和教育推進事業や保育・教育の中での実践における、いのちや人権を大切にす取り組み
- ・自殺予防デー（9/10）の街頭啓発や広報紙・ホームページへの記事掲載による啓発
- ・母子健康手帳発行時や育児等支援家庭訪問（すこやか訪問）時、健康教育などの機会を捉えた啓発
- ・市民センターにおける公民館講座ややすらぎ学級、高齢者のつどい事業や市民スポーツ大会の開催などによるいきがづくりの取り組み
- ・移動困難者の運送支援、福祉車両の貸し出しといった、活動への参加を促すための取り組み

など

健康なこころを維持できるように、地域に根ざした取り組みが多く行われている。今後も、一層意図的にこころの健康づくりがすすめられるよう、機会を捉えて啓発をすすめる必要がある。

目標指標：広報での特集記事の掲載等、あらゆる機会を通じてこころの健康づくりに関する啓発を行う。

⇒ 実施できている。更なる機会拡大をはかる。

基本方針2 こころの健康づくりをすすめます

基本方針3 一人ひとりの気づきと主体的な取り組みをすすめます

基本施策4 孤立化しない地域づくりを行う

- ・民生委員児童委員、健康推進員、ファミリーサポート会員等による地域での見守り、手助けといった孤立化防止対策
- ・基本施策3いきがづくりのための各事業や、隣保館デイサービス、離乳食レストラン、子育てサークル活動の支援などの居場所づくりの取り組み
- ・近所力アップ講座といった、地域で支えあうことの啓発

など

市民センター、隣保館といった地域の施設で講座やサロンを開催し、地域で活躍する民生委員児童委員や健康推進員などにより見守りや手助けが行われているなど、地域での取り組みが多く行われている。

学校や職域と地域との連携を深め、よりつながりあえる地域づくりを行っていく必要がある。

基本方針3 一人ひとりの気づきと主体的な取り組みをすすめます
基本方針4 自殺予防の体制づくりを行います

基本施策5 ゲートキーパーを養成する

- ・ 市民対象のゲートキーパー養成研修
平成27年度 「気づき・つなぎ・見守る～ゲートキーパーの心得～」
メープルクリニック院長 佐藤啓二先生
参加者122人
- ・ 健康教育、出前講座など地域での研修、教職員への研修
※ 平成27年度、商工会議所のメンタルヘルス研修において、ゲートキーパー養成研修を実施され、健康増進課からも自殺対策の説明を行った。今年度も継続して実施いただけるよう調整中。
- ・ 庁内職員向けのゲートキーパー養成研修
平成27年度 初級編（未受講の全職員対象）、ステップアップ編（過去に受講経験ある全職員対象）各1回開催
平成28年度 初級編（相談窓口関係課の新規職員・未受講の職員対象） 2回
ステップアップ編（全庁管理職・初級編受講経験のある全職員対象） 1回

ゲートキーパーの養成として、地域住民や関係機関において研修を実施している。地域の中や関係機関における支援の中で、多くの人が「気づき、聴き、つなぎ、見守る」ことで、本人とともに家族や周囲の人を支えられるように、今後も継続した研修が必要である。

多くの市民にとってより充実した内容の研修となる必要がある。

目標指標：地域住民を対象としたゲートキーパー養成研修会を年間1回以上開催し、毎年50名以上の受講者を目指す。

各種相談窓口担当者を対象としたゲートキーパー養成研修会を年間1回以上開催し、毎年50名以上の受講者を目指す。

⇒ 実施できている。より多くの市民が身近な人と支えあえるように、また相談窓口で質の高い援助をおこなうため、研修を継続する。

基本方針4 自殺予防の体制づくりを行います

基本施策6 相談支援のネットワークを構築する

- ・ 妊娠、子育て、教育、青少年、高齢者、人権、暮らし、消費者トラブル、納税、就労、生活困窮、障害、健康、介護などの窓口での相談業務と、必要に応じた他の窓口への紹介や連携
- ・ 学校におけるスクールカウンセラーの配置
- ・ 相談窓口リーフレットの作成・配布 **【別添リーフレット参照】**
- ・ 相談窓口担当者等のメンタルケア事業 **など**

多くの庁内外機関で相談窓口を設けており、紹介するリーフレットについて好評をいただいている。相談内容に応じて関係機関と連携し、より適切な支援につなげることができ始めている。

死にたいといった相談を受ける側の人は、大きなストレスを受けるため、職員が疲弊してしまわないよう、研修と同時に、関係者全員で支えあっている体制が必要である。

目標指標：相談窓口の周知をはかり、各種相談件数が増加する。

- ⇒ **窓口ごとに増減の差はあるが、相談窓口の数は増えており、相談しやすい体制づくりがすすんでいる。**
今後も関係機関と連携しながら相談支援を充実させていく。

基本施策7 遺された人の苦痛をやわらげる

- ・ 相談支援の実施
- ・ 自死遺族会「風の会おうみ」の周知・開催協力
風の会おうみ…わかちあいのつどい 毎月第3土曜日、近江八幡で開催
平成27年度 サテライト（出張わかちあいの会）1回草津で開催
平成28年度 毎月のわかちあいのつどい 3回草津で開催（市後援）

自死で大切な人を失った人の苦しさを和らげるため、風の会の存在を広く周知し、参加しやすい環境づくりにつとめた。

わかちあいに行くこともできずに苦しむ遺族は多く、自死遺族であることを隠し、支援を受け入れられない遺族もいるため、悲嘆の中にいる遺族に支援を届けていくための取り組みが求められている。